

# 総合人間科学 英 語

## 1 構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（ 0人）
助教（うち病院籍）	0人（ 0人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人（外国人教師）
合 計	3人

## 2 教員の異動状況

遠藤 幸英（教授）（H14. 5. 1～現職）  
 中安美奈子（准教授）（H19. 8. 1～現職）  
 O'Dowd, Gregory V.G.（H14. 5. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Endo, Y: An Examination of the Human Soul that Dwells within the Machine as Exemplified by *The Ghost in the Shell*. 浜松医科大学紀要 一般教育 23: 33-44.
2. O'Dowd, G: Creating an Education Culture of Lifelong Learning. Studies in International Relations, Nihon University, Mishima, Japan. Vol.29 (sep., 2008), No.2,
3. O'Dowd, G: The rise, decline and future of the Australian rice industry in the age of the world food crisis. Studies in International Relations, Nihon University, Mishima, Japan. Vol.29, No.3, p375-390
4. O'Dowd, G: An examination of the roles of education and training in the making of a doctor. 浜松医科大学紀要 一般教育 23: 45-69.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### 4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	5件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

1. Endo, Y: "Cyborg Communication: Technological and Coscial Impact of Cyborgization on

Semiosis". The 33<sup>rd</sup> Annual Meeting of the Semiotic Society of America. 18 October 2008. Houston, TX.

2. Nakayasu M: "SHALL and WILL in Shakespeare's Discourse". 15th International Conference in English Historical Linguistics. 26 August 2008. University of Munich, Munich, Germany.
3. Nakayasu M: "Social Interaction at Work: Modals and (Impoliteness in Shakespeare. Historical Pragmatics Workshop". 10 March 2009. Gakushuin University, Tokyo, Japan.
4. ; "Student voices on learning a foreign language". 13 July 2008, Hamamatsu JALT.
5. "Extensive reading & improving TOEIC score". 11 January 2009, Hamamatsu JALT.

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	1件

### (2) 国内共同研究

高田博行（学習院大学） et al. 歴史語用論に関する総合的研究（中安美奈子）

### (3) 学内共同研究

梶村春彦（病理学第一） Molecular Biology of the Cellを利用した英語教育（中安美奈子）

## 10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 初期近代英語における法助動詞

シェイクスピアをコーパスとして法助動詞を語用論的な視点から記述・分析した。言語行為等のマイクロ語用論に属するもののみならず、ポライトネス、会話や談話等、マクロなレベルに踏み込んだ分析を行った。平成20年度はこの研究成果を出版する準備を行った。

（中安美奈子）

### 2. Molecular Biology of the Cellを利用した英語教育

医学科1年次「英語IB」において、Molecular Biology of the Cellを利用した英語教育の実践を

行った。他の一般教育科目との横の連携、高等学校の科目から本科目を通じて専門教育科目への縦の連携を目指した。リーディングの技能に重点を置きながら、グループ発表を取り入れた授業を行った。

(中安美奈子, 相村春彦, 遠藤幸英)

### 3. 歴史語用論に関する総合的研究

ドイツ語, 英語, 日本語を対象言語として, 談話標識のほかポライトネス, 呼称, テンス, 発話行為, 人称代名詞, およびそれらの語用論的相互作用を実証的に解明することを目指した。

(<sup>1</sup>高田博行 et al. (中安美奈子)) <sup>1</sup>学習院大学

### 4. 英語におけるテンスとモダリティー-メデイカル・ディスコースへの示唆-

英語におけるテンスとモダリティーを語用論的な視点から分析した。その際, 「形式-機能」, 「機能-形式」双方向からの対応づけを行った。マクロ語用論的なファクターに加えて, 社会的, 情緒的なファクターを考慮に入れた。

(中安美奈子)